

科目名	現代文B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	近代以降の優れた文章や作品を読解し鑑賞する能力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、更に言語感覚を磨き表現力を身につけ、自ら積極的に読書する姿勢を身につけることにより人生を豊かにする態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 S 使える	複雑な文章の正確な読み取りと理解および語彙の正確な意味の理解、活用ができる。	必要な情報を用い、課題や目的に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	自分の意見、他者の意見を論理的にまとめ、表現する力を高めるとともに、その向上を図ろうとする。
価 A わかる	近代以降の様々な文章を通して、論理展開の形式や語彙、文学の表現技法等を正確に理解する。	論理展開や描写、表現技法を把握しつつ、文章の主題を的確捉えて表現できる。	自らの意見をまとめ、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。
基 B できる	文章を的確に読み取り、目的に応じて幅広く読むことで、自分の考えを深め、発展させている。	自分の考えを適切に整理し、論理的かつ効果的に表現できる。	自分の考えをまとめつつ、周りの友人と共同して課題解決に努める。
準 C する	文章展開および言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付ける。	基礎的な語彙力や文法力に基づき、筋道を立て考えつつ、それを表現する。	授業に必要な教材の準備や、身だしなみ等を整える。
評価方法	授業時の観察・定期考査・小テスト・校内漢字テスト	授業時の観察・定期考査・小テスト・レポート等	授業に臨む姿勢や意欲、グループ活動等での活動成果

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	[随想]感性的な表現の読み取り方 [小説(1)]小説の基本的な読み方 [評論(1)]評論文の基本的な読み方
2 学期	[評論(2)]論の展開、論拠、要旨を的確にとらえる。 [小説(2)]小説の多様な在り方を理解する [短歌・俳句]表現上の特色をとらえ、作品を深く味わう [詩]詩の構成に沿って、作者の心情をつかむ。
3 学期	[評論(3)]論の展開に沿って適切に読み取る。 [評論(4)]対比による論の展開を理解する。 [小説(3)]長編小説の展開を丁寧に追って作品の主題に迫る。

何で学ぶか(教材)

東京書籍『精選現代文B』
東京書籍『精選現代文B 学習課題ノート』
桐原書店『常用漢字 ワイドアルファ』
浜島書店『常用国語便覧』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習
プリント教材

科目名	数学 I A 演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを旨とする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 S 使える	事象を数学的に解釈したり、数学的に表現したりすることができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	粘り強く考え数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、評価・改善しようとするすることができる。
価 A わかる	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的に考察し、問題を解決できる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
基 B できる	問題に応じて適切な公式を使うことができる。	適切な用語・記号を使い、過程や結果を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準 C する	基本的な計算や、目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	・授業 ・定期考査	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	数と式 2次関数 三角比 データの分析
2 学期	場合の数と確率 図形の性質 整数の性質
3 学期	

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 新編数学 I』 数研出版『改訂版 新編数学A』 数研出版『改訂版 3TRIAL数学 I +A』 大学入試対策テキスト プリント (Link)
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	古典B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典を通した先人のものの見方や感じ方、考え方とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	S 使える 古典を通して、先人のものの見方や感じ方、考え方を理解することができる。	古典の作品に表れているものの見方や考え方を踏まえ、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	古典作品を、自らの考え方や生活に結び付けながら読もうとすることができる。
価	A わかる 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解できる。	必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈することができる。	古典作品を読むためのきまりや語彙を身に付けようすることができる。
基	B できる 古典の作品に表れている言葉の響きやリズム、表現の特色などを理解することができる。	文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。	古典作品に進んで慣れ親しもうとする姿勢をもつことができる。
準	C する 古典の作品や文章の種類とその特徴を理解することができる。	構成や展開などを的確に捉え、文章の種類を理解することができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	・古文 随筆(枕草子)、物語(源氏物語・大鏡)、日記(蜻蛉日記・和泉式部日記・紫式部日記) ・漢文 史伝(三国志・史記)、小説(人面桃花・杜子春伝)、漢詩
2 学期	・古文 評論(古今和歌集仮名序・無明草子・風姿花伝・去来集) ・漢文 思想と寓話(荀子・孟子・孟子・老子・韓非子) ・私大試験対策
3 学期	・私大試験対策

何で学ぶか(教材)

<ul style="list-style-type: none"> 教科書 明治書院『新 高等学校古典B』 副教材 『体系古典文法』(数研出版) 『体系古典文法準拠ノート』(数研出版) ・『新明説漢文』(尚文出版) ・『重要古文単語315』(桐原書店)

どのように学ぶか(授業方法など)

<ul style="list-style-type: none"> 講義 ペア学習 グループ学習 問題演習
--

科目名	数学ⅡB演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 S 使える	事象を数学的に解釈したり、数学的に表現したりすることができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	粘り強く考え数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、評価・改善しようとすることができる。
価 A わかる	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的に考察し、問題を解決できる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
基 B できる	問題に応じて適切な公式を使うことができる。	適切な用語・記号を使い、過程や結果を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準 C する	基本的な計算や、目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	・授業 ・定期考査	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	式と証明・複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数と対数関数
2 学期	微分法と積分法 ベクトル 数列
3 学期	

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 新編数学Ⅱ』 数研出版『改訂版 新編数学B』 数研出版『改訂版 3TRIAL数学Ⅱ+B』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	日本史B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	研志	コース 大学進学
目標	歴史的思考力を培うなかで基礎歴史事項の確認とともに、多様化する現代社会の中での課題を考える。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基 準	S 使える	我が国の文化や伝統がどのような特色をもち形成されてきたかについての認識を深めることができる。	政治、経済、社会、文化、国際環境など歴史を構成する要素について幅広い考察力を培うことができる。	日本史の理解に必要な情報を主体的に選択して活用し、歴史的事柄を追求する方法を身に付けることができる。
	A わかる	日本史と各地域の歴史の関連性を理解することができる。	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察することができる。	日本史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集を行うことができる。
	B できる	日本史と世界史を関連づけながら理解することができる。	平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養うことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	日本史を理解するために必要な語句を理解することができる。	日本史の知識を踏まえて、現代日本の課題を歴史的視点から考察することができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	近代国家の成立 二つの世界大戦とアジア
2 学 期	占領下の日本 高度成長の時代 激動する世界と日本
3 学 期	大学入試問題演習

何で学ぶか(教材)

<p>詳説日本史B (山川出版) 日本史のライブラリー (とうほう)</p>
--

どのように学ぶか(授業方法など)

<p>講義 ペア学習・グループ学習</p>

科目名	公民	授業時数	週 1 単位	3 学年
		コース	研志	コース 大学進学
目標	社会的な見方・考え方を働かせ、主体的に生きる国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 準	S 使える	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び現代の諸課題について理解できるとともに、諸資料から様々な情報を適切に調べまとめることができる	現代の諸課題について、事実を基に多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を多面的・多角的な考察や深い理解を通して主体的に解決しようとするすることができる
	A わかる	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解できるとともに、様々な情報から情報を取捨選択し、まとめることができる	現代の諸課題について、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、議論することができる。	現代の諸課題について、考察し、主体的に解決しようとするすることができる
	B できる	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念や理論について理解できるとともに、様々な情報をもとに、調べることができる	事実を基に考察し、公正に判断することができる。	現代の諸課題について、自らの知識を通して、主体的に理解しようとするすることができる。
	C する	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念について理解できる。	事実をもとに考察することができる	日々の課題に対して、主体的に理解しようとするすることができる。
評価方法	・授業 ・定期テスト	・授業 ・定期テスト ・提出物	・授業 ・提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	国際政治のしくみと動向
2 学期	国際経済のしくみと動向 国際社会の現状と課題
3 学期	

何で学ぶか(教材)

実践ノート型問題集現代社会 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペアワーク グループワーク ディスカッション

科目名	コミュニケーション英語Ⅲ	授業時数	週 4 単位	3 学年
		コース	研志コース	コース 大進
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すると共に、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力をさらに伸ばし、社会生活において活用できるようにする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	自分の意見を適切な英語表現を用いて正しく話したり書いたりできる。	具体的な言語の使用場面に応じて思考・表現し、相手に理解してもらうことができる。	自然に相づちやアイコンタクトがとれ、積極的に関わろうとする。
価	相手が表現する内容を正しく捉えることができ、内容を理解することができる。	指定された時間内に正しい発音で、内容を分かりながら読める。	理解したことを他者と確認したり、意見を伝えたりすることができる。
基	内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすることができる。	指定された時間内に正しい発音で読める。また事実と意見などを区別して、理解できる。	理解できない部分をそのままにせず他者に聞くなどして解決することができる。
準	モデル文を真似てゆっくりはつきり読み、丁寧に書くことができる。	平易な単語を置き換えて、パターンプラクティスすることができる。	授業を受ける準備ができる。(用具、服装・整理整頓など) また教師の話を中心して聞くことができる。
評価方法	授業・定期考査・インタビューテスト	授業・定期考査・提出物・パフォーマンステスト	授業・提出物・音読テスト

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Discourse Marker, L1 Emperor Penguin L2 Caffeine, L3 Blood is Blood L4 Biomimetics
2 学期	L5 Communication without Words L6 Christmas Truce L7 Political Correctness L8 Global Water Crisis
3 学期	

何で学ぶか(教材)

啓林館『LANDMARK Fit』 English Communication III 数研出版『必携英単語LEAP』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	英語演習	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	長文や文法、リスニングの問題演習により思考力、判断力を向上させることで大学入試共通テストや私立大学の入試レベルの学力を身につける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	入試レベルの問題演習において、単語や慣用句など適切な語彙で正しく解答できる。	入試レベルの問題演習において、正しく解答することができる。	入試レベルの問題を積極的に解き、復習し、読解力や正答率を向上させるよう努めている。
	A わかる	演習問題において、語句の問題が正しく解答できる。	演習問題において、根拠に基づいて適切に解答できる。	演習問題を根拠に基づいて解くだけでなく、積極的に復習をし、弱点を補強しようと努めている。
	B できる	単語や語句の力が向上している。	演習問題において、自分なりの根拠に基づいて解答を導くことができる。	演習問題において、自分で考え、根拠に基づいて解答しようと努めている。
	C する	問題演習に取り組んでいる。	問題演習に取り組んでいる。	問題演習に取り組んでいる。
評価方法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Stage 2：文型，時制，完了形，助動詞，受動態，不定詞，動名詞，分詞/分詞構文，比較，関係詞，仮定法
2 学期	Stage 3：時制，助動詞，受動態，準動詞，比較，関係詞，仮定法，否定，注意すべき構文，名詞・代名詞，形容詞・副詞，前置詞・接続詞，大学入試問題演習
3 学期	

何で学ぶか(教材)

英語総合問題集 UNITE STAGE 2 (数研出版)
英語総合問題集 UNITE STAGE 3 (数研出版)

どのように学ぶか(授業方法など)

問題演習 ペア学習・グループ学習 講義による解説

科目名	国語表現演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	漢字の読み書き・ことばの使い方・身につけておくべき常識を自分のものにし、日本語の「力」を習得する。またTPOに応じた表現方法ができ、社会活動においても信頼される人材を目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	S 使える 習得した漢字・ことば・ことわざ・慣用句・四字熟語を活用する。	文章表現のなかで、習得した国語常識を適切に表す。	日常的な場面で積極的に習得した語句を使用する。
価	A わかる 漢字・ことばの正しい使い方ができ、常識用語を認識する。	文章表現のなかで、適切な語句を正しく選択する。	習得した語句を理解し、自分の日常生活に関わらせる態度を持つ。
基	B できる 国語常識を繰り返し学習し、正確に理解する。	場面、状況にあった語句の使い方を考え、正しく理解する。	身につけるべき事柄について意欲的に学習できる。
準	C する 覚えておくべき国語常識の演習問題に取り組む。	漢字書き取り練習、語句の意味調べに取り組む。	日本語の力を身につけるため、国語を総合的に学習する意欲を持つ。
評価方法	授業時の観察・定期考査・小テスト	授業時の観察・定期考査・小テスト	授業時の観察・定期考査・小テスト

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を読む力 ・漢字を書く力 ・ことばの力 ・文章表現 韻文 文学史 文法の力
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を読む力 ・漢字を書く力 ・ことばの力 ・文章表現 韻文 文学史 文法の力
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を読む力 ・漢字を書く力 ・ことばの力 ・文章表現 韻文 文学史 文法の力

何で学ぶか(教材)

<ul style="list-style-type: none"> ・テスト式 国語常識の総演習 京都書房 ・補助教材プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習後の答え合わせ ・補助教材での反復学習

科目名	生物基礎	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 標準	S 使える	基本的な概念・原理・法則を十分に理解し、数値の取り扱いも確実にできる。実験、実習の技能が確実に身につけている。	図表やグラフ、実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。実験・観察の結果を適切に表現できる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち、調べたり考察したりする。
	A わかる	基本的な概念・原理・法則を概ね理解し、数値の取り扱いもできる。実験、実習の技能が概ね身につけている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることのもとに、考察することができる。	グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B できる	基本的な概念・知識が概ね身につけている。実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。
	C する	基本的な概念・知識がある程度身につけている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し、積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法	定期考査 確認テスト ワークシート 実験、観察、レポート等	定期考査 確認テスト ワークシート 実験、観察、レポート等	授業態度 各種提出物 グループワーク 実験、観察、レポート等	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1部 生物の特徴 第2部 遺伝子とその働き
2 学期	第3部 生物の体内環境の維持 第4部 生物の多様性と生態系
3 学期	

何で学ぶか(教材)

啓林館 新編生物基礎(305)
数研出版 改訂版 生物基礎学習ノート

どのように学ぶか(授業方法など)

講義、演習
グループ活動

科目名	体育	授業時数	週	3	単位	3	学年
		コース・学年	研志	コース	文系・芸術系大学進学		
目標 各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。							

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	S 使える 実践の中で技術や戦術、正しい知識を用いて、楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとすることができる。
価	A わかる 戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに、自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
基	B できる 基礎練習を正しくおこなひ、競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
準	C する 基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バasketボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習(ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析
--